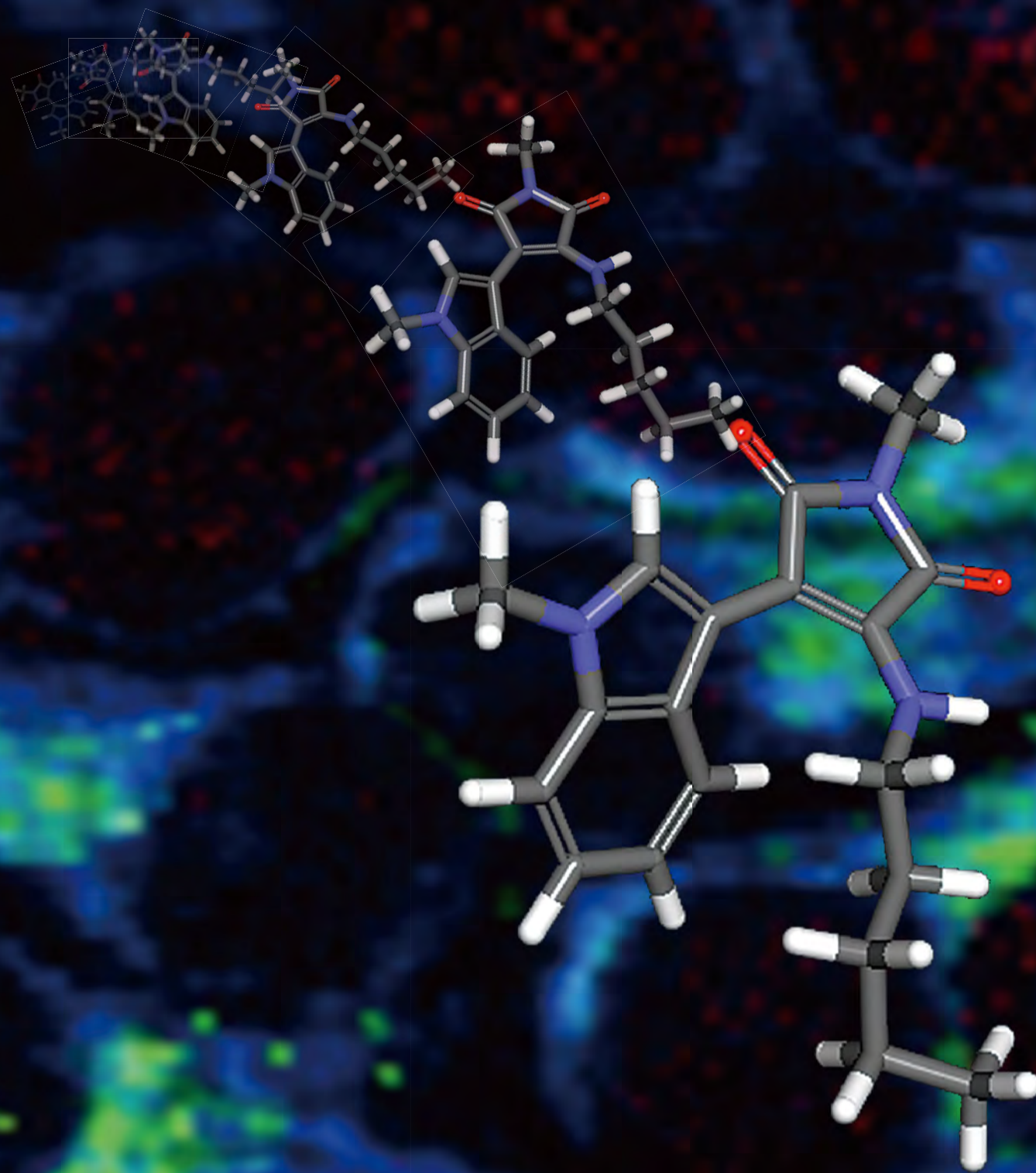


ERATO



Live Cell Chemistry



JST-ERATO 袖岡生細胞分子化学プロジェクト 最終成果報告会

分子で細胞死を**探る**

2008年にスタートした本プロジェクトは、脳梗塞などの病気とも深く関係する細胞死「ネクローシス」に焦点をあて、低分子化合物と化学的な手法を用いてその実態を明らかにすることに努めてきました。今回、その成果についてご報告させていただくとともに、おふたりの先生の特別講演も行います。

日時:

2014年1月15日(水曜日)

13:00~18:00

会場:

東京大学 伊藤国際学術研究センター

伊藤謝恩ホール(文京区本郷7-3-1)

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/access.html>

参加費: 無料

プログラム

はじめに 13:00~13:20

袖岡 幹子(理化学研究所・JST-ERATO研究総括)

特別招待講演 13:20~14:50

橋本 祐一(東京大学 分子細胞生物学研究所 教授)

「タンパク質の寿命と局在のケミカルコントロール」

清水 重臣(東京医科歯科大学 難治疾患研究所 教授)

「生体の恒常性維持に寄与する様々な細胞死とオートファジー」

グループ研究報告 15:10~17:00

閻闔 孝介(理化学研究所・JST-ERATO細胞死制御GL)

「細胞死制御分子の開発とケミカルバイオロジー」

袖岡 幹子(理化学研究所・JST-ERATO研究総括)

「標的分子同定のための化学反応」

藤田 克昌(大阪大学・JST-ERATO生細胞解析GL)

「細胞死を捉えるための新しいツール:ラマン散乱の利用」

まとめ 17:00~17:10

袖岡 幹子(理化学研究所・JST-ERATO研究総括)

ポスターセッション 17:10~18:00